

ご利用者の感想を
聞いてみました

電子黒板と連携させて 学習記録をプリンターで印刷、 生徒に渡すことで学習の蓄積ができる

エプソンのソフトは生徒も簡単に覚えられ使い易いため、
グループ授業を通して生徒同士でも教え合うことができる

エプソンの電子黒板に標準添付されているソフト「Epson iProjection」は、必要な機能だけに厳選・限定されているので、生徒からも簡単に覚えられ使い易いと好評です。

導入してまだ1～2ヶ月程度ですが、生徒達は既にうまく使いこなしています。ログインしたソフトを立ち上げたりする操作も、今ではあたりまえの行動になっているようです。また、ICTリテラシーの高い子が低い子に教えるなど、グループ授業を通して生徒同士で教え合うことができるので、クラス全体で高め合い伸びていくこともできています。

ハード面でも、PCに接続しなくとも、かんたんに書き込みなどができるため、生徒が学活や委員会等で自由に活用を始めています。教員の活用も広がっており、最近では機器の利用予約も取り合い状況で、国語・英語・数学・社会・理科・音楽・美術・保健体育・技術家庭科まで、10人以上の先生方がこのセットを活用して様々な授業を行っています。

電子黒板やタブレットを使った授業でも、
印刷物で学習記録を残すことで後で見返すことができる

現在の公立校では、タブレットなどのICT機器は1人1台ではなく、各クラス共同使用する場合が多いのが現実です。

このため、授業内容が端末に残っていても、後で個人で振り返って確認することはできず、またICT授業を何単元かに続けて行う場合にも、以前の授業内容の保存・整理・呼び出しなどがしにくく、うまく活用されてきませんでした。電子黒板とプリンターの導入後は、授業中に教室で授業画面などをプリンターで印刷し生徒に渡すことで、単元毎のまとめを残すことができ、それを自宅へ持ち帰ったり、復習や新たな学びに役立てるなど、学習の蓄積ができるようになりました。電子黒板の画面上で重要線を引いたり、重要な点を書き込んだ学習記録を残せるため、このセットを導入して大変良かったと感じています。



グループ毎に回答を記入した画面をプリントアウト



プリントした紙面をノートに貼り込み学習記録として保存

まとめ

ご導入効果

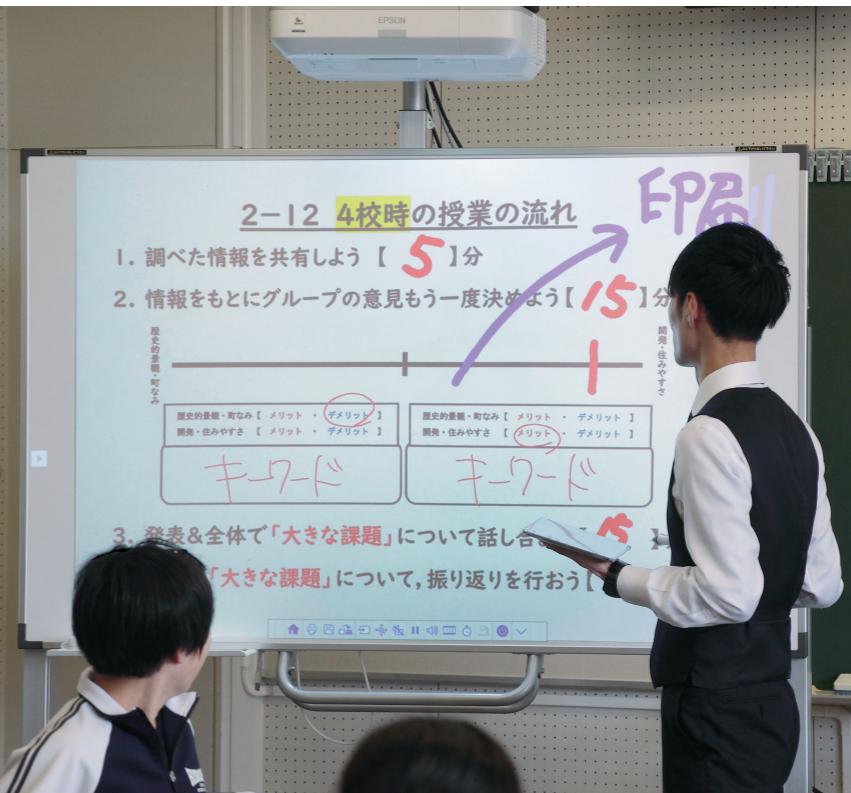
- エプソンの電子黒板ならタブレットやプリンターと連携してスムーズで効率的な協働学習が行える
- 授業準備にかかる作業負担を減らすことでき、先生方の働き方改革にも貢献
- エプソンの電子黒板なら画面上からの直接指示でスピード印刷
- 授業中に学習記録を印刷して残すことでき、生徒達の学習の蓄積ができる

小・中・高等学校

お客様インタビュー

電子黒板+ビジネスインクジェットプリンター導入事例

電子黒板、タブレット、プリンターを連携して スムーズで効率的な協働学習を推進



お客様の
ご紹介

仙台市立広瀬中学校 様

2018年に創設72周年を迎えた仙台市立広瀬中学校は、広瀬川の清流に沿って蕃山、青葉山、蔵王・船形山、泉ヶ岳などの山々を望む田園地帯に立地。近年、栗生・落合地区、錦ヶ丘・愛子駅近郊などの宅地造成と、二岩・倉内地区の工業団地開発が相まって急速に学区内の都市化・人口増加が進み、現在、宮城県および東北一に生徒数が多く、全国でも第2位のマンモス中学校となっている。

「生徒一人一人に居場所があり、明日も来たいと思う学校づくり」を基本方針に学校活動を行っており、加入率80%以上と部活動が活発で東北大会・全国大会へも多数進出。宮城まつりなどボランティアへの参加や自転車利用マナーアップモデル推進校として地域活動へも協力を行っている。また、校内のICT体制改革に着手し、2017年10月には「第21回視聴覚教育総合全国大会」および「第68回放送教育研究会全国大会」授業提供校として公開授業も実施している。

■お客様データ
所在地: 宮城県仙台市青葉区愛子中央1-9-1
児童数: 1171人・37学級(2018/5/1現在、特別支援学級含む)
教職員数: 教員65人、職員15人
施設内容: 鉄筋コンクリート3階建



全国第2位のマンモス校。2019年4月には錦ヶ丘中学校との分離も予定されている。

導入機器

電子黒板機能搭載
プロジェクター
EB-696UT

授業教材の画面表示、
タブレットの画面表示、
ペンでの要点書き込み、
授業画面の生徒への配信などの用途に

■設置場所
EB-696UT、PX-M886FL、ELPDC21のセットは全校で2セット導入
(現在、視聴覚室と図書室で試験運用中)



ビジネスインクジェットモデル
A4インクジェット複合機
PX-M886FL

授業教材の印刷出力、
電子黒板の画面出力、
タブレットの画面出力などの用途に



書画カメラ(実物投影機)
ELPDC21

プリント教材の画面表示、
画像データ入力などの用途に



エプソンの製品に関するお問い合わせ

プリンター購入ガイドインフォメーション
050-3155-8100
受付時間 9:00～17:30月～金曜日(祝日、弊社指定休日を除く)

プロジェクターインフォメーションセンター
050-3155-7010
受付時間 9:00～17:30月～金曜日(祝日、弊社指定休日を除く)

エプソンのホームページ
epson.jp

電子黒板と周辺機器を連携することで スピーディーで効率の良い授業ができる



仙台市立広瀬中学校
校長
數本 芳行 様



仙台市立広瀬中学校
教頭
菅野 勝紀 様



仙台市立広瀬中学校
教頭
芳賀 亨 様

ICTリテラシー向上、学びの連携、アクティブラーニングなど 子供達の期待に応えていくためにも校内のICT改革が必要

2016年に本校に赴任したと同時に、2018年10月に開催される「第21回視聴覚教育総合全国大会」「第68回放送教育研究会全国大会」における授業提供校の依頼を受けました。

まずは校内体制の調査から始めましたが、当時のICT環境は全く未整備で大型TVは各教室毎に無いため数が足りておらず、電子黒板も校内に1台のみで、タブレットは皆無でした。ノートPCとプロジェクターも数が足りないという、教室に持ち運ぶことが手間だったため、使用頻度も少ない状態でした。

一方、学区内にある錦ヶ丘小学校・愛子小学校は、メディア・ICT活用研究の先進校で、本校に入学してくる生徒のICT習熟度は高いにもかかわらず、子供たちの期待に応えることが出来ない状態でした。

そのため、ICTリテラシー向上、学びの連携、アクティブラーニングなど、最新の学習の流れを中学校でも提供できる環境を整えるために、本校でもICT推進が急務と判断しICT環境改革に着手しました。

仙台市教育センターや東北学院大学、宮城教育大学などの指導・協力のもと、支援企業との連携や職員の資質育成に努め、プロジェクター追加と共にタブレットの試験導入や一部無線環境も整備。また、全国大会や各種研究会の視察やNHK放送番組活用の研修会、校内の勉強会などを多数実施しながら指導力アップを図りました。その甲斐あって2018年10月の公開授業は無事成功。「小さいけれど大きなはじめの一歩」を踏み出せたと自負しています。

しかし、仙台市で全中学校にタブレットが完備されるのは2020年。公開授業実施後も今後のICT推進活動に空白期間ができないよう仙台市の自主公開授業校(2020年11月実施)にも立候補しました。

これに向けて、2018年12月よりエプソンのプロジェクター型電子黒板「EB-696UT」書画カメラ「ELPDC21」プリンター「PX-M886FL」を校内に2セット導入。さらなるレベルアップを目指して授業の研究と改善を図っています。

電子黒板があれば、授業がスピーディーに効率良く行えるため、 考える時間や、話し合い・発表の時間が多くとれる

授業で使うコンテンツは、教科書から必要部分を抜粋してプリント配布か黒板に板書して、それをベースに書き込んでいく進行スタイルが殆どですが、電子黒板を導入することで、授業の最初の板書などがなくなり、非常に時間節約ができるようになりました。また、電子黒板により周辺機器を連携することで、授業を効率良く進められ、考える時間や、話し合いと発表の時間を多くとれるようになったことが最大のメリットだと考えています。

さらに発表中の動画をタブレットで撮影して投写するなど、授業の振り返り学習に使える点でも便利です。発表を客観的に見返して悪かった点や改善点などをみんなで分析することで、発表力のレベルアップも図っています。

また、教材の印刷準備や機器の移動・設置など、先生方の作業負担も減らせるので「働き方改革」にも繋がります。



視聴覚室に電子黒板、書画カメラ、タブレットなどを設置



「EB-696UT」と連携してタブレットやプリンターを無線で運用



壁際にプリンターを設置、電子黒板の画面からの操作で直接印刷



教師も生徒達も使い易いエプソン標準ソフト「Epson iProjection」

ご利用者の感想を
聞いてみました

教師も生徒も思考を止めることなく、 リズム良く、探究的な授業ができる



仙台市立広瀬中学校
教諭・研究主任
齋藤 純 様

電子黒板、タブレット、プリンターを連携して 協働学習のステップをテンポ良くスムーズに実施

授業では、電子黒板は、授業教材の表示や前回内容の見返し、教師や生徒用タブレット画面の表示や比較、ペンでの要点書き込み、授業過程画面の生徒への配信、プリントアウト操作などに使用。教師用タブレットは、教師端末から生徒端末への教材配信操作、生徒回答の進捗確認、電子黒板への生徒端末画面の選択表示や分割表示操作など、プリンターは主に授業の最後の学習記録の印刷出力に使用しています。

電子黒板とプリンターが導入される前は、タブレットはあっても、他の機器との繋がりや連動性がなく、なかなかテンポの良い授業を行うことができませんでした。しかし導入後は、電子黒板・タブレット・プリンターを連携させ、書き込み・配信・印刷など全ての操作を電子黒板の画面上で行えるため、教室での無駄な移動がなくなり、授業をリズミカルに進めることができます。

教師も生徒も思考を止めることなく「個人に考えさせる」「グループに考えさせる」「全体に共有する」という協働学習のステップをスムーズな流れで行え、みんなで考えていく探究的な授業ができるので大変効果的だと思っています。

電子黒板、タブレット、プリンターを連携した協働学習授業の流れ

1 全体学習

スケジュール、配布用紙を電子黒板に2画面で投写しながら授業の流れを説明。
投写した内容を電子黒板からそのまま生徒に配信。

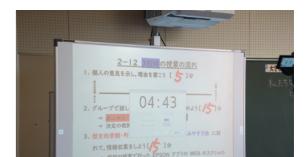
2画面比較投写 画面配信機能



2 個人学習

制限時間を設定し、その間に教科書・資料を活用しながら一人ひとり、しっかりと自分で考えさせる。

タイマー機能



3 グループ学習・情報収集

制限時間を設定し、グループ毎に意見交換、自身の考えを伝えると共にメンバーの意見を聞き、様々なキーワードを抽出。
グループとしての意見をタブレット上にまとめていく。

タイマー機能



教員はタブレットでグループの進捗を確認しながら机間指導を行い、生徒を見せたいグループのタブレット画面を電子黒板に配信。

サムネイル表示 画面配信機能



他のグループの進捗状況を電子黒板上にリアルタイムで表示し、考え方の気づきを与える。

4画面比較投写

4 発表

グループとしてのまとめを電子黒板に投写し、グループとしてなぜそのような意見にまとめたのか、理由と考えの経過を電子黒板に書き込みながら説明。
クラス全体へ共有する。

画面記録機能



5 記録・まとめ・振り返り

書き込みをした画面をグループ毎に印刷し、授業の学習記録として配布。

画面印刷



配布されたプリントをノートに貼って、この単元で何を学んだのかを自分の意見を書き加えてまとめとする。